

# 保護者保育指導の大学教育における教育内容，教育方法の検討 —対応の困難な保護者保育指導の学習過程—

## 第2報

青木 利江子

A Study of Parents' Childcare Programs in University Education:  
Their Contents and Methodology. How to teach methods of  
childcare to parents who have childcare anxiety (Ⅱ)

Rieko AOKI

近年，離婚率の増加による片親家庭，再婚率の増加，また社会経済の変化による母親の就労の増加による保育の社会化等，子育ての家庭環境は変化している。また核家族化，地域社会の疎遠等の中で，保護者自身も成長過程において乳幼児と触れ合うことが少なく，関わりの経験が少ないことが多い。その結果，親世代になってもどのように子育てをしていけばいいかわからず，育児不安になる保護者も多く，また相談しにくい保育環境にある。そうした保育状況の中で，児童虐待，複雑な家族関係，気になる保護者等，保育者（保育士・幼稚園教諭）の保護者への対応が困難な事例が増加している。筆者は，大学教育に置いて「保護者への保育指導」の教育（育児相談）を担当し，「保護者保育指導の大学教育における教育内容，教育方法の検討—保護者保育指導技術の学習過程を通して—第1報」において，幼稚園教諭，保育士を志す短期大学生の，保護者保育指導技術の学習過程の変化を分析し，大学における保護者保育指導の教育内容，教育方法の検討を行った。その結果，カリキュラムの検討及び学習過程の分析の中で，保育士の専門性の一つである保護者保育指導とは，心理学，社会福祉学，保健学等と対象や相談内容においても類似しながら，それらの学問領域の知識や技術をメタパラダイムとして背景にし，応用しながら，保育学独自の専門性を持つパラダイムが，その知識，技術分野にあることが分かった。またそうした知識，技術の習得や，ロールプレイング（基礎的）をする中で，学生が保護者への対応を学び，保護者への対応に自信を持つことができるように変化するのを観察した。本研究は，第1報の報告後，学生が上記のような対応の困難な事例（虐待，気になる保護者（対応の難しい保護者保育指導）等）の発展的ロールプレイングを通し，学び，変化した学習の過程を分析し，大学に置ける保護者保育指導技術の教育，教育方法についての検討を報告する。

はじめに

### 【保護者保育指導とは】

児童福祉法18条4に定められた、保育の専門性の一つである「保護者に対する保育に関する指導」（以下保護者保育指導とする）は、登録を受け、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術を持って、児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことをいう。

### 【保護者に対する指導の困難さ】

保育士養成協議会（2003年）が、全国的に現職保育士に行った「保護者に対する指導」の受け止め方の調査によると、「保護者への働きかけで困難と感じる内容」は、「虐待が疑われる場合（83.4%）」、次いで「保護者から苦情があった場合（73.1%）」、「心身の障害（67.9%）」「保護者同士の人間関係（56.4%）」「保護者の育児態度（47.8%）」「発達状態（34.9%）」「健康・疾病（30.4%）」「栄養、離乳（23.8%）」「しつけの方法（20.3%）」「生活習慣（12.3%）」という内容があげられていた。一方「子どもへの関わり方」「排泄等の自立」「子どもの人間関係」等は10%以下であり、これらの項目は、日頃保育者としての専門的な関わりで培われた専門的な知識や経験により指導にあたっていると考えられる。

保護者への働きかけで困難を感じる保育士は多く、20歳代56%、30歳代54.8%と特に若い年代に顕著であった。調査より実際に保護者に保育指導をする際の困難さは、虐待、保護者からの苦情、心身の障害、保護者の育児態度や人間関係等が多く、これまでの保育の専門性に加えて、最近の社会状況、価値観、家族構造の変化等による、対応が難しい指導が多く、保育士は指導の負担を大きく感じていると言える。

### 【児童虐待の現状と保育者の対応の必要性】

児童虐待は、子どもの心身の発達や人格形成に大きな影響を与え、子どもの生涯、さらには世代を超えて深刻な影響をもたらす事もある。平成12年の児童虐待防止法以降も、死亡にいたる児童虐待事件もたびたび起こっている。全国の児童相談所に寄せられる児童虐待相談対応件数も、児童虐待防止法制定直前の平成11年度11,631件から平成19年度40,639件と4倍近く増加している。

児童虐待は、家庭内で発生した場合、虐待と認めない親も多く、長期、多岐に渡り支援が必要になる。厚生労働省は、虐待の発生予防から早期発見、早期対応、虐待を受けた子どもの自立に至までの切れ目の無い総合的支援体制を作り、虐待を受けた子ども、虐待を行った保護者やその家庭に対して、社会全体で支援して行くこととしている。発生予防に関しては、平成19年度から、こにちは赤ちゃん事業（生後4ヶ月までの全戸

訪問事業）を行い，子育て支援に関する情報提供や養育環境等の把握を行っている。また要保護児童対策地域協議会の設置促進を行い，虐待防止ネットワークも各地域で作られている。（平成20年度全市町村の94.1%に設置）

子どもは保護者からの虐待について訴える事が出来ず，また虐待を受ける事について自分自身が悪いと考え，心身ともに傷を負っている場合が多い。そのため，子どもからの訴えで発見される事は少なく，状況が深刻になる事が多い。保育者は，子どもに接する時間が多く，虐待の早期発見が可能である。そのため，子どもたちの心身の発育状況の観察（体重の減少，増加不足，体の傷や打撲。）また表情やコミュニケーションの状況（恐怖，発語不足，暴力行為，等），送迎時の親子関係（暴言，暴力，無表情等）の観察をし，早期発見につとめる必要がある。また地域の社会資源にも精通し，他の専門家（医師，心理士，ソーシャルワーカー，保健師等）との協力や支援がいつでも受けられる実質的な体制作りが必要である。また保育者は，子どもを通し，保護者との信頼関係を得やすい環境にあるため，相談を受けたり，支援をしやすい立場にある。そうした保護者と近い状況にある保育者の役割は大きく，育児に不安や悩みを持つ保護者や子どもを，虐待から予防，救済できるかもしれない大切な存在でもある。したがって，保育者は，虐待や虐待の予防に関する専門的な知識を持ち，相談支援をして行く事が大切である。また一方で保育者としての相談支援の限界（子どもの生命の危険，家族関係の問題，保護者の精神障害，経済状況等）についてもよく理解し，保育の現場の中で抱え込み，解決しようとしめない事も大切な事である。そうした保育の専門家としての関わりの判断力も保育者が身につけていかなければならない専門的能力である。

### 【気になる保護者（対応の困難な保護者保育指導）への支援】

近年，学校現場では，子どもへの対応，学校の方針，教育方法等について，意見や質問を繰り返す保護者への対応に，困難を生じていることが多くなっている。子育ては，保護者と保育，教育に関わる人々のパートナーシップの中で行うものである。しかし，今日，子どものために協力して行かなければならない保護者と教師，保育者の関係が，しばしば敵対的なものになってしまう場合がある。

しかし，対応の困難な保護者（気になる保護者の抱えている問題）には様々なものがあり，楠は「気になる保護者の問題を，単に保護者個人の要因に期するのではなく，貧困問題をはじめとする今日の社会状況との関連でとらえていかなければ，同時代を生きる人間同士としてのつながりを回復していくことは困難であると考え，一方，気になる保護者の抱えている問題にはさまざまなものがあり，その保護者に固有の問題や内的葛藤，生きづらさを共感的に理解して行くことも必要である」と，保護者との共同関係を

作って行く必要について述べている。一方、「保護者によっては、こちらが誠実にかかわっていても、そのことがプラスに作用せず、かえって支配や攻撃が深刻化していく場合もあり、つながれないときは、せめてお互いに傷つけ合わない、お互いにパワーを乱用しない関係性を築いていくこと、そして、子どもへの援助に重点を置くしか無い場合もある」と関係作りの困難さも指摘している。

武井は「保育士や看護師、ソーシャルワーカー、接客業など、対人サービスの職種はすべて感情労働者である」とし、「感情労働とは、対面あるいは声による人々との接触が不可欠であり、他人になんらかの感情変化を起こさなければならないこと、また雇用者は労働者の感情労働をある程度支配するものであり、それだけに感情労働が心身に及ぼす影響を自覚していないと共感的に理解し、信頼関係が深まる事によって心理的付加が増し、バーンアウト（燃え尽き症候群）に追い込められてしまう場合がある。（共感疲労）」と述べている。したがって保育者は、相談や支援に応じる場合、特に対応の難しい保護者への対応等の場合、距離を置いたり、職員同士で直面している問題を表現し、サポートし合う関係性を築いて行く体制も大切になる。

## 1. 育児相談の教育内容と教育方法

### 《教育内容》

育児相談科目は、保育士資格課程における「保護者保育指導」を教育するためのA短期大学独自の科目である。保育士養成課程、保育実践において必要な教育として、保護者支援を目的に設置された。2年生後期の選択科目であり、保育学、教育学、社会福祉学、心理学、保健学、栄養学等の基礎、専門科目を履修し、実習を終了した学生が履修する。これまで履修してきた科目の複合科目であり、保育士資格課程における履修科目のシラバスから保護者保育指導においてメタパラダイムとなる教育科目を抽出し、その履修内容と合わせて、保護者保育指導を育児相談において実践する上で必要な知識、技術についての教育カリキュラムを作成した。（表1）なお分類については、保育指導（保護者保育指導）の基盤になる保育技術を、保育所保育指針より「①発達援助の技術、②生活援助の技術、③関係構築の技術、④環境構成の技術、⑤遊びを展開する技術」という柏女の分類に、「⑥社会資源の活用技術」を加えた6分類で構成した。

### 《教育方法》

- （1）保護者保育指導基礎知識の講義（表1カリキュラム）
- （2）実践に生かすために、ロールプレイング（基礎的、発展的）等の演習を通じて、保護者や子どもを共感的に理解し支援する能力、保護者保育指導の専門性を高め、実力を



保護者保育指導の大学教育における教育内容、教育方法の検討

養う。また保育現場では、保育者同士、その他社会資源の専門家の人たちとネットワークを組み協力していかなければならないため、ロールプレイングの演習をした事例について、ケースカンファレンスをし、ケース報告やケース検討を行う。

表 1 保護者保育指導 専門知識、技術カリキュラム

保護者保育指導専門知識、技術	教育内容	関連科目、履修学年
①発達援助の技術		
発育、発達、言葉、歯科	発育発達、言葉に関する相談内容、年齢による身体的発達、言葉の観察（２語文、吃音）、トイレットトレーニング	小児保健Ⅰ（１年必修） 小児保健Ⅱ（２年必修） 乳児保育（２年必修） 発達心理学（１年選択） 保育内容の研究（言葉）（２年選択）
発達障害、障害児支援	発達障害、障害児支援に関する相談、家族、兄弟の支援、家庭との協力、社会資源との連携・ネットワーク、	教育相談（２年必修） 障害児保育（２年選択） 養護内容（２年必修）
②生活援助の技術		
生活リズム、生活環境	生活リズム 成長過程と生活リズムの振り返り、生活リズムの形成時期と保護者の役割	小児保健Ⅰ 小児栄養（１年必修）
栄養、母乳相談	食事に関する相談、母乳育児の疲労と対策、小食、好き嫌い	小児栄養
③関係構築の技術		
育児方法、育児不安、ストレス	保育、育児方法（０～６歳）、気になる行動、子育て上の家族関係、人間関係、エジンバラ産後うつ病質問診、気になる保護者支援、保育士の感情労働	養護内容 乳児保育（０～３歳） 障害児保育
虐待、家族関係	虐待の早期発見（児の心身、親子関係の観察）、虐待事例の相談、危機対応、社会資源との連携、ネットワーク共感疲労のセルフケア、職場の情報共有、理解、相互支援（ケースカンファレンス等）	養護内容 家族援助論（２年必修）
カウンセリングの知識、技術	対象の全体像の把握、理解、相談場面の環境構成、観察（発達、親子関係、愛着形成）、相談場面のロールプレイング、共感疲労のセルフケア、職場の情報共有、理解、相互支援（ケースカンファレンス等）	精神保健（２年選択） 教育相談 社会福祉援助技術（２年必修） 社会福祉論（２年必修） 臨床心理学（２年選択）

④環境構成 ⑤遊びの展開の技術		
環境構成と遊びの展開	<p>保護者保育指導のための環境構成（相談場面の環境構成，園庭開放，プレイルーム，子どもの成長，発達への影響），家庭生活環境の構成，人的環境（情報提供・交換，園便り，連絡帳，懇談会）</p> <p>遊びの展開（保護者の遊びを通した子どもとのかかわり方，プレイセラピー，親子の観察）</p>	<p>保育内容の研究（環境）（2年選択）</p> <p>幼児と運動遊び（2年必修）</p> <p>児童文化Ⅰ（1年必修）</p> <p>児童文化Ⅱ（2年必修）</p> <p>臨床心理学（2年選択）</p>
⑥社会資源の活用技術		
社会資源の活用に関する知識技術	<p>保育士の専門的判断（他の専門家との関わり，保育士の専門性）</p> <p>ネットワーク作り（地域の社会資源の把握，関係作り）</p>	<p>社会福祉援助技術</p> <p>小児保健Ⅰ</p> <p>教育相談，精神保健</p> <p>養護内容，障害児保育</p>

## 2. 研究目的

本研究では，第1報において基礎的な事例について専門的支援の演習を行ったのち，発展的な学習として「虐待，発達障害や気になる保護者（対応の困難な保護者保育指導）の事例」の相談場面の発展的ロールプレイングを行い，その学習過程における学生の保護者保育指導技術の変化を分析し，大学における保護者保育指導教育についてさらに分析をする。

## 3. 研究方法

（1）各学生の学習過程における保護者保育指導技術の変化を分析する。

### ① 事例研究の方法

- ・ロールプレイングを学生が自己分析する。（保育士の役割）
- ・研究者はロールプレイングのファシリテーターとして参加し，観察法にて保護者保育指導技術の変化を観察，分析する。
- ・ビデオ記録は，ロールプレイングの振り返り，学生の自己分析過程，及び研究者の観察法の補足資料として使用した。
- ・ロールプレイング専門的支援の自己評価と観察者の評価。

評価は，保育所保育指針の保育士の専門性の記述から「（1）保育に関する専門的知識，技術（2）保護者が支持を求めている子育て問題や課題を把握する（3）その問題に対して，保護者の気持ちを受け止める（4）安定した親子関係や養育力の向上を目指して

行う子どもの養育（保育）に関する相談、助言、行動見本の提示等を行う。」の4項目を設け、それに対して「できていた5点、だいたいできていた4点、ふつう3点、できていないところがあった2点、できていない1点」の点数をつけ自己分析する。評価の目的は、自分の専門的保護者保育指導を振り返り、できている点、またさらに学びや深める必要のある点を把握し、今後の学びに生かすためである。

## ② 事例研究のためのデータ

- ・発展的ロールプレイングの分析：学生の自己分析および観察法による学生の言動の分析
- ・発展的ロールプレイングの評価；自己評価
- ・事例（発展的ロールプレイング）

気になる保護者（対応の困難な保護者）への支援事例

保護者が、自分の子どもが他の子どもにいじめられており、怪我をさせられたと保育園側の対応について意見を言いに来た事例。保護者はアスペルガー障害を持ち、子どものことをとても心配し、保育園の対応に、かなり反感を持ち訴えてきた。

（2）教育内容、教育方法と学生の学習過程による変化の関係性を分析し、専門性を生かした、保護者保育指導教育内容（カリキュラム）、教育方法を考察する。

## 4. 結果

（1）各学生の学習過程における保護者保育指導技術の変化を分析する。

### 学生の個別性の分析（自尊感情）

講義開始時に、学生の自尊感情尺度（荒木）による自尊感情の分析を行った。

学生の特性（自尊感情A=高い、自尊感情B=普通、自尊感情C=低い）

学生A（自尊感情B）、学生B（自尊感情A）、学生C（自尊感情C）、学生D（自尊感情C）、学生E（自尊感情A）

表2 各学生の学習過程における保護者保育指導技術の変化の分析

学生A（事例1）

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>（発展的ロールプレイング：対応困難事例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分が疑いから入ってしまい、その保護者を認めてあげることができなかった。気持ちはわかると母親の気持ちを共感することが大切。</li> <li>・認めたら他の親からの批判等色々考えてしまい、その事例にも100%取り組む事が出来なかった。</li> <li>・子どもからの意見（いじめ）も聞こうと思った。</li> <li>・発語について知る。</li> <li>・背景を気にしすぎてしまった。</li> <li>・いじめられている事に対しての理解はしたがどうしてほしいかまではよくわからなかった。</li> <li>・一度の相談で解決しようとせず、長い目でみて療育機関への紹介も。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・非常に対応に困っている様子である。</li> <li>・保護者の意見を聞いているが、なかなか気持ちを共感できないようである。</li> <li>・基礎的ロールプレイングのときは、非常にスムーズに助言していたが、どのように助言をすれば良いのかと惑っている様子も見られた。</li> </ul>
<p>（基礎的ロールプレイングから発展的ロールプレイングの変化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の課題を見いだす事も視野に入れるようになった。</li> <li>・また子どもから聞き取る情報や様々な情報をまとめる力も大切。環境を聞き出すためには必要なもの。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的ロールプレイングの中では、保護者に共感し、保護者中心の対策を的確な専門的アドバイスをして相談支援ができていた。</li> <li>・発展的ロールプレイングでは、基礎のときに非常にスムーズに進められていたが、対応困難な事例の対応では、保護者の気持ちの共感がなかなか出来ないようであった。</li> <li>・保護者の抱える問題をなんとか解決しようとするだけでなく、保護者の気持ちに寄り添う事でも相談に来た保護者は、悩みや心配が緩和される。</li> </ul>

学生B

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>（発展的ロールプレイング：対応困難事例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者としていじめを認めてしまうと難しく、また同じことの繰り返し言われ、保護者にどう対応すれば良いのかとまどった。</li> <li>・専門的知識をどう伝えればいいのか。今回の事例は難しい。</li> <li>・保護者がアスペルガーの事例であり、対応が難しかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園での子どもの様子（友達と話したり。他の事仲良くしている）を伝えて、保護者を安心できるようにしている。</li> <li>・家での、子どもの様子、お母さんとの関わりについての状況を聞いている。保護者の様子から母子関係に着目し、家での様子を聞いて、子どもの全体像を把握しようとしている。</li> </ul>

保護者保育指導の大学教育における教育内容、教育方法の検討

<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな様子で園生活を送っているか伝えればよかった。</li> <li>・保育所内で相談し、見守り様子を見ることを伝える。</li> <li>・また話しにきて下さいと伝えたが、どんな相談所があるか伝えられれば良かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめられている事を心配している保護者に、園でもこれからは気をつけて見ていると話し、今後の園の対応に触れている。</li> <li>・子どもにも声をかけたり、様子を聞いたりしている。ただ対応困難な訴えをしている保護者の前では子どもは素直に表現が出来ない事も多い。</li> </ul>
<p>(基礎的ロールプレイングから発展的ロールプレイングの変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何度もロールプレイングをやったので、こういう事例にはこういう答えをいったり、質問を考えたりと、バリエーションは増えていった。何度もやると対応に幅ができる。</li> <li>・どうやって専門的知識を伝えればいいのか、少しだが分かってきた。</li> <li>・保護者の立場に立ち不安なことをまず軽くするようになった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイング基礎のときから、共感的に保護者の相談支援が出来ていた。</li> <li>・対応困難な事例に対しても、保護者の気持ちを理解しようとして、共感的に理解する姿勢が見られた。</li> <li>・子どもへの配慮もでき、保護者が安心して相談できる相談支援を進めることができるようになった。</li> <li>・保護者に精神障害がある場合の支援もさらに学びを深める必要がある。</li> </ul>

学生C

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>(発展的ロールプレイング：対応困難事例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者に対して、こうしたらどうですかと提案してみたのだが、子どもが落ち着きがなく、話も出来ないという状況で、後の解決策がみつからなかった。</li> <li>・ただ少しでも良い方法がみつからないのかを考えることができた。</li> <li>・うなずきもあり、聞いてくれている事が分かり安心した。</li> <li>・言葉の教室を進められた。</li> <li>・子どもがその場で緊張して言葉が出てこないことも気づければよかった。</li> <li>・身近に本を置いておくなど環境構成について考えた方がよかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園では、他の子どもと遊んだり、子ども同士でいるときはあまり泣いていないなど、保護者の見ていない場面での子どものいいところを伝えていて、保護者に子どもの園生活への安心感を与えている。</li> <li>・園では消毒をして様子をみたと、対処について話している。</li> <li>・保護者への連絡が出来ていなかった事を謝罪している。</li> <li>・保護者がどうして子どものことを心配するのかその背景の気持ちを共感しようとしている。</li> </ul>
<p>(基礎的ロールプレイングから発展的ロールプレイングの変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最初の時に比べて、相談内容に対しておちついて話を聞き、今までの知識を使いながら答えられるようになってきたかなと感じた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ロールプレイング基礎のときは、非常に緊張した様子であったが、専門的知識を学習し、自信を持って相談支援ができるようになった。</li> <li>・相談をすすめるのに、はじめはとても苦労しているようであったが、相談者の気持ちを理解し</li> </ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・事例ごとにどの援助技術にあたるのかがわかるようになった。</li> <li>・今までのロールプレイングを振り返って、何について相談してきたのかを理解できるようになった。</li> <li>・回を重ねるごとに保護者の気持ちを分かってあげたいと思いながら取り組めるようになった。</li> </ul>	<p>ようと、ロールプレイングを重ねて来たことにより、悩みや心配を抱えた保護者にとっても共感できるようになった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもへの配慮もできるようになり、落ち着いて相談を進められるようになり、基礎的ロールプレイングのときから非常に変化した。</li> </ul>
--	--

## 学生D

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>（発展的ロールプレイング：対応困難事例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただただ非を認めて、謝罪する事しかできなかった。謝っていたから聞いてもらえた。</li> <li>・自分の非は認め、一つ一つ説明する事はできたと思う。</li> <li>・特に専門的知識を使えなかった。</li> <li>・母親の話を正面から向き合って聞くことはできたと思う。</li> <li>・気持ちは受け止めることはできたと思う。</li> <li>・母親の思いや考えていること、求めているものを把握することはできたと思う。</li> <li>・子どものことを考えている余裕がなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園での対応への不満に、園での子どもの様子を話し、安心してもらおうとしている。</li> <li>・子どもにこれからはもう少し対応して行きたいと、今後の園の対応の改善について話し、保護者の不満を緩和しようとしている。</li> <li>・傷については、園でも消毒した処置について伝えている。</li> <li>・連絡対応不足について申し訳ないと謝罪している。目に入ったりするといけないので、子どもたちの対応に気をつけたいと、今後の対応についても述べている。</li> <li>・訴えの多い対応の困難な事例であるが、相手の気持ちを受け止め、園の対応不足については謝罪し、今後の園での対応についても話し、訴えの不満を緩和している。</li> </ul>
<p>（基礎的ロールプレイングから発展的ロールプレイングの変化）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何度もロールプレイングを重ねるごとに上手にできるようになったと思う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の気持ちの受け止め、問題の分析がとても良く出来ている。専門的知識に関しては、複雑な事例であり、他の専門分野の知識も必要な場合もあるが、自分の現在持っている専門的な知識を用いて、個別性に合った対応が良くなる様になった。</li> </ul>

## 学生E

学生自身の分析（保育士の役割）	観察法による学生の言動の分析
<p>（発展的ロールプレイング：対応困難事例）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の共感ができないまま「この人いきなりなんだろう」と思ってしまった。</li> <li>・突然来て、なんだか怒っていたりしてびっくりする。どう対応していいのか迷う。</li> <li>・内容によって自分の気持ちが顔に出してしまう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園での様子を伝えたが、保護者は対応に不満があり、保育者は保護者の態度が理解できない様子。</li> <li>・傷ができた場合、大丈夫かと判断して対応したと話す。保育園でけがをした場合は、電話、送迎時、また連絡帳等で連絡する必要がある。</li> </ul>

保護者保育指導の大学教育における教育内容、教育方法の検討

<p>じゃないかと思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売り言葉に買い言葉は良くない。</li> <li>・何かあれば、保護者にきちんと連絡することは大切だと思った。顔に怪我をしたのに病院に連れて行ってほしいとのことで、保護者との連絡を密にして行かなければならない。</li> <li>・あまり受け止められなかった。まず一步引いた対応をして気持ちをしずめて見ても良かった。「そうですか。こちらの対応も悪かったですね。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園の対応の状況を話す事も大切であるが、自分でも分析できているが、今回の事例は保護者が精神障害があり、対応の困難な場合、まず保護者の訴えを聞き、気持ちを受け止めることが必要である。</li> </ul>
<p>(基礎的ロールプレイングから発展的ロールプレイングの変化)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門的な知識を持っていると、相談内容に対してきちんとした答えが出せるし、そこから今後の対応など広げて行けると思った。</li> <li>・ただ話を聞くだけでも一つの対応。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育の専門的な相談支援は、とても良く出来ているが、対応困難事例のように、通常接する機会のあまりない保護者との対応についても、自分で分析している様に、一步引いて相手の気持ちをまず受け止め対応できれば、相談支援につなげることができる。</li> </ul>

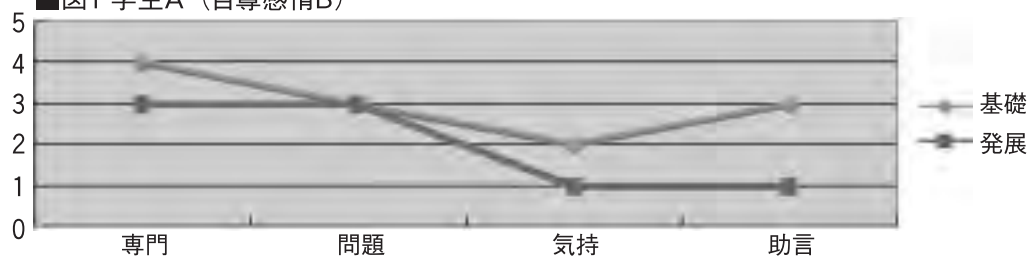
基礎的ロールプレイングと発展的ロールプレイングの自己評価

(できていた5点、だいたいできていた4点、ふつう3点、できていないところがあった2点、できていない1点)

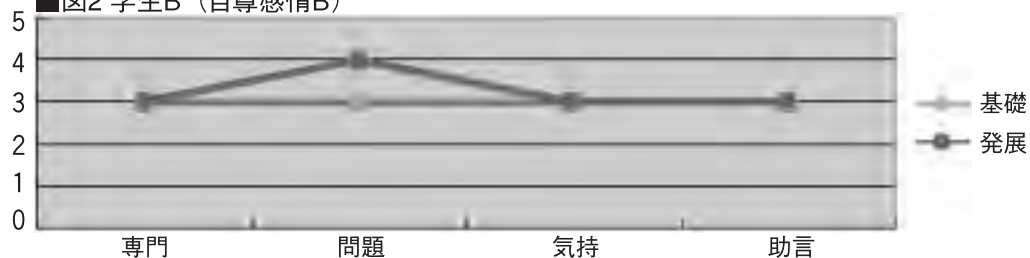
	1.保育の専門的知識・技術	2.保護者の求める知識	3.保護者の気持ちを受け止める	4.保育に関する相談、助言、行動見本
学生 A 基礎	4	3	2*	3
対応困難事例	3	3	1 ↓	1 ↓
学生 B 基礎	1*	3	2*	3
対応困難事例	2	1 ↓	3 ↑	2
学生 C 基礎	3	3	3	3*
対応困難事例	3	4 ↑	3	3
学生 D 基礎	4	3	3*	3
対応困難事例	1 ↓	4 ↑	4 ↑	1 ↓
学生 E 基礎	3	3*	4	4
対応困難事例	2	3	2 ↓	2 ↓

基礎的ロールプレイングと発展的ロールプレイング 学生の自己評価の比較

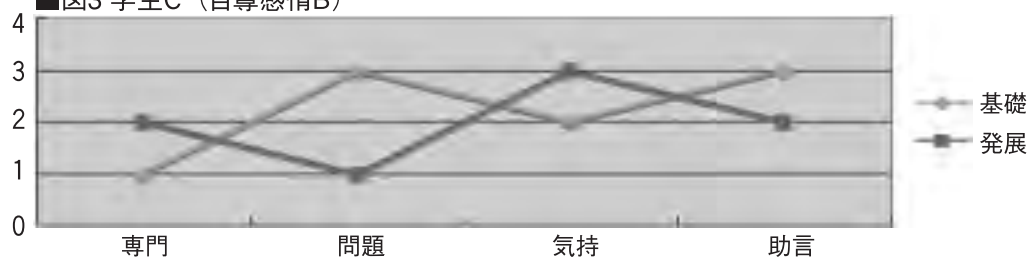
■図1 学生A (自尊感情B)



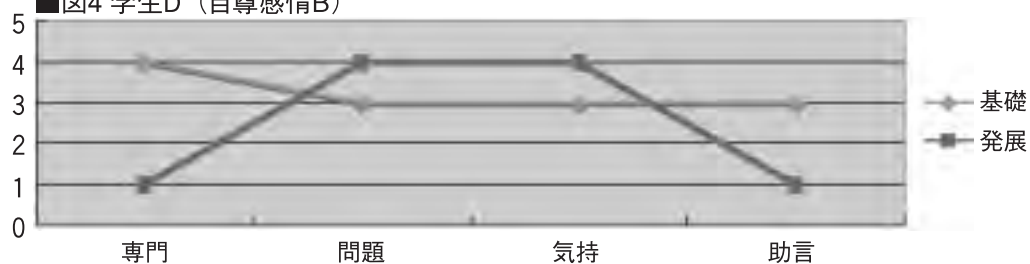
■図2 学生B (自尊感情B)



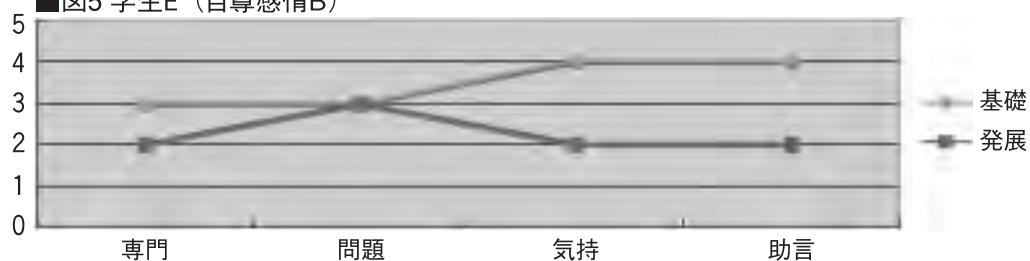
■図3 学生C (自尊感情B)



■図4 学生D (自尊感情B)

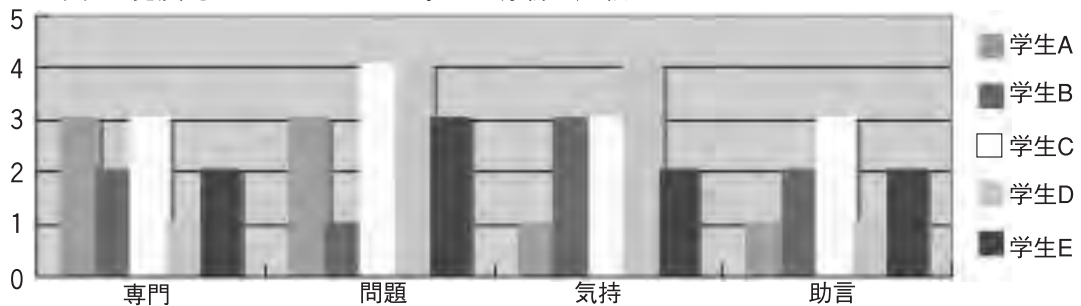


■図5 学生E (自尊感情B)





■図6 発展的ロールプレイングの学生の分析の比較



## 学生の学習過程の分析

### 学生Aの保護者保育指導技術の変化（表2、図1）

学生Aは、基礎的ロールプレイングの時は、初回からとても明るい雰囲気、スムーズに相談を進めていた。ただ自己評価については、保護者の気持ちを受け止める点が低かった。実際の面接場面では良く出来ていたが、心の中では共感が出来ていない所があったのかもしれない。発展的ロールプレイングに入ると、やはり本人が感じていた部分が面接場面にも現れ、対応が困難な様子だった。保護者の気持ちを受け止める点をできていないと自己評価していた。問題の分析、専門的支援に関しては自己評価も変わっておらず、専門的支援は社会資源の利用も進め、良く出来ていた。

### 学生Bの保護者保育指導技術の変化（表2、図2）

学生Bは、基礎的ロールプレイングの時から、共感的に保護者の話を良く聞けていた。基礎のときは、専門的支援の点数が低かったが、今回は困難な事例であったが、保護者の訴える気持ちを理解しようと努めていた。共感的姿勢を常に持ち、保護者に対応している姿勢は、保護者保育指導において、大切な技術は実践できている。自己評価も共感項目の点数を上げている。

### 学生Cの保護者保育指導技術の変化（表2、図3）

学生Cは、基礎的ロールプレイングの時は、非常に緊張して、面接場面で下を向く事も多く、言葉が続かない場面も多かった。そのことで、上手く出来ないと悩んだり、どうすれば良いのか色々と考え、ロールプレイングの演習を重ね、保護者保育指導に必要な知識や技術を積み重ねて行った。そのため、発展的ロールプレイングの学習に入ると、困難な事例にも関わらず、保護者の気持ちに寄り添い、専門的知識に基づいたとても良

い相談ができるようになった。学生Aの学習過程による変化は非常にめざましかった。子どもへの配慮や話しかけ等も随分できるようになった。

#### 学生Dの保護者保育指導技術の変化(表2、図4)

学生Dは、基礎的ロールプレイングのときは、下を向いて記録を書きながら話している場面が多かった。事例を重ねるにつれて、少しずつ相談になれてきたようだった。発展的ロールプレイングに入る頃には、保護者の方を見て、うなずきながら、ゆっくりと保護者の話すのを受け止める姿勢が出来ていた。

対応困難事例では自己評価が低かったが、専門的知識を生かしながら、個性に合わせた対策を考えられるようになって行った。基礎的ロールプレイングのときと比較すると、自信のある対応ができるようになった。この学生の場合は、施設実習で様々な境遇の子どもたちと出会い、施設職員の方の対応から学ぶことも多かったようである。

#### 学生Eの保護者保育指導技術の変化(表3、図5)

学生Eは、基礎的ロールプレイングのはじめのときから、保護者の気持ちに寄り添い、子どもにも配慮しながら良い相談ができていた。しかし今回の対応困難事例については、対応に非常に困っているようであった。この学生も、基礎のときから非常にスムーズに相談に応じており、苦情を繰り返す保護者への対応は、共感を得にくいようだった。こうした事例は、共感的理解、事例の問題への取り組みが難しいが、まず相手の気持ちを受け止め、どこに問題があり、どこから問題を解決して行けば良いのかを一つ一つ考えて行くことが必要になる。

#### 保護者の抱える問題の明確化(図6)

基礎的ロールプレイングにおいて、スムーズに相談に応じた場合、対応困難事例で対応に困る学生が何人かいた。その反面、基礎的ロールプレイングの時に、うまく対応できず悩んだり、苦労したり、色々考えた学生は、発展的ロールプレイングで、対応の困難な事例に対応しても、相手の気持ちを共感でき、上手く対応できているようだった。これは様々な要因が考えられるが、一つは対応困難な事例もうまく対応できると考えていたために、困難な対応に苦慮したこと。もう一つは保護者の価値観があまりに自分自身の価値観と離れていて、共感しにくかったことも考えられる。発展的ロールプレイングで対応が良かった学生は、基礎的学習場面で自分自身の対応が困難な場合に、その対策を色々考え対応してきた事が、相手をより理解し、共感する方法を次第に身に付けて行ったことも考えられる。

ただ両者に共通して言える事は、たとえ対応が困難な事例でも、あきらめずに、自分

の取り組めるアプローチで、誠実に保護者の相談に対応していたことにより、保護者保育指導技術の大きな学びにつながったと考えられる。

発展的ロールプレイングの気になる保護者の事例（対応が困難な事例）は、相談内容としては「こどものけんかによるけがの対応、いじめ」ということであり、保護者の気持ちを共感しながら、問題を分析し、今後の対策について保護者と一緒に考えて行けば良いのであるが、相談場面に置いて、保護者がアスペルガー障害を持っており、非常に攻撃的に抗議してきた事例であり、自分の感情や意見を一方的に話し、態度がかたくなであったため、保護者の気持ちの共感が難しく、保護者が抱えていた悩みや問題の解決に向けての相談や助言が難しかったようである。学生はこうした事例が背景に抱えている問題について学習はしていたが、ロールプレイングで保護者に対面した時に、障害が背景にある事は把握できていなかった。もし障害がある事を推察できていたら、もう少し落ち着いて相手に対応できたと考えられる。何故保護者がそのように訴えてくるのか、その背景や原因を、相談の中で把握し、その状況を理解しようとする姿勢は、保護者に伝わるであろうし、それが問題を明確化し、的確な対応につながると考える。保護者の抱える障害や背景に対応することは困難な場合もあるが、精神障害者への専門的対応の仕方の知識を学び、上手くコミュニケーションが取れれば、その時点で保護者の訴えてきた問題に焦点を当て、その問題の解決に向けた相談、支援を出来る可能性がある。またそうした対応こそが、保護者の共感を得、保護者や子どもを少しでも、悩みや心配、不安な状況から救うことが出来ると考える。こうした問題を背後に抱えた、一面一方的に抗議してきたり、攻撃的であったりして対応が困難な事例は、最近保育所、幼稚園でも増えており、こうした保護者の悩みや問題に対応する相談知識や技術は、これからさらに保育者に必要とされる。

### 保護者の気持ちの理解や共感

一方的に抗議してきたり、攻撃的であったりして対応が困難な事例の背景には、様々な問題がある。それは貧困等の経済問題、子どもの障害への苦悩、保護者の精神障害や虐待等の複雑な生い立ち、複雑な家族関係等、保護者の側の様々な問題が潜んでいる場合がある。それらの問題が、過剰に子どもを心配したり、また園の対応への抗議や、子どもの虐待、育児放棄等の行動につながっている場合も多い。楠は「教育現場への激しい批判や攻撃も、もう一歩深いところの保護者の生きづらさや葛藤が感じ取られ、表現され、共感的に応答されていくとき、他者との確かなつながりが築く力になる。」とこうした保護者への理解、共感の大切さについて述べている。しかし一方で「保護者のおかれている社会状況、問題が深刻であり、保護者の思いを共感的に理解するだけでは困

難な場合がある。受け止めようとする事が支配や依存を強化してしまい、相互的な関係から遠ざかってしまう。受容する事と侵入、支配する事の違いを明確にし、保護者との関係性の中ではパワーゲームの土俵に入らない事、お互いの相互尊重の関係に立って対話を開いて行く事が必要である。」としている。

### 共感疲労への対応

対応が難しい保護者に対応する場合、共感的に理解する事によって、保育者に辛さや無力感が起こり、距離が保てなくなってバーンアウトしてしまうことがある。したがって共感的理解をするためには、自分を守るために距離を置いたり、セルフケアをしっかりし、保育者同士の中で、お互いが直面している傷つきや葛藤を安全に表現し合い、サポートし合える関係を築いて行く事が共感疲労に追いつめられないためにも大切である。

### 対応が困難な事例への対応

保護者が自分の気持ちを理解され、受け入れられると、自分の問題と子どもの問題を切り離して考える事が出来るゆとりが生まれる。自分の問題と子どもの問題が区別されていないと、問題の解決は難しい。一方保護者への連携が困難な場合もあり、そうした場合子どもにとって、保育の現場が安心して暮らせる居場所になるように支援し、保護者の心理的支配から自立して行けるようにする事の必要な場合もある。コミュニティの誰かが子どもの思いに答えて行くこと、子どもの心の中に、他者や世界、自分自身に対する信頼感、他者から受け入れられている自分自身に対する信頼感を築いて行く事も大切である。

(2) 教育内容、教育方法と学生の学習過程による変化の関係性を分析し、専門性を生かした、質の高い保護者保育指導技術教育内容、教育方法を考察する。

### 教育内容、教育方法の分析

基礎または発展的ロールプレイングの学生の学習過程を通して、保護者保育指導教育（知識、技術）のために作成した教育内容を分析し（表3）、保護者保育指導技術教育内容、教育方法を考察し、今後の教育内容にさらに加えたい項目等を検討した。

表3 保護者保育指導 専門知識、技術カリキュラムの分析

保護者保育指導専門知識、技術	教育内容、新たに加えたい項目	教育内容、教育方法の分析
①発達援助の技術		
発育、発達、言葉、歯科	発育、発達、言葉に関する相談内容、年齢による身体的発達の目安、言葉の観察（２語文、吃音）、トイレトレーニング 加えたい項目：相談場面での発育、発達の観察方法（心身、言葉）	発育、発達、言葉、歯科等の基本的な相談事例については、専門的支援ができていた。ただ相談場面で子どもを観察し、分析する保育者としての観察力、分析力はさらに養う必要がある。
発達障害、障害児支援	発達障害、障害児支援に関する相談、家族、兄弟の支援、家庭との協力、社会資源との連携、ネットワーク 加えたい項目：発達障害児を支える家族の子ども、育児への気持ちの共感、支援方法（コミュニケーションの取り方）、共感疲労のセルフケア、ケア体制（保育者間）	発達障害児、その保護者への理解はあるが、実際にロールプレイングになると保護者の気持ちの理解、共感（育児への思い、不安、苦勞等）、および子どもへのコミュニケーションの取り方（児の観察、絵カード等）の能力を養う必要がある。
②生活援助の技術		
生活リズム、生活環境	生活リズム 成長過程と生活リズムの振り返り、生活リズムの形成時期と保護者の役割 加えたい項目：生活リズム改善の課題の作成、実践と分析（課題の設定の方法）	自らの成長過程と生活リズムの振り返りにより、子どもの生活リズムの形成期や保護者の生活リズムの整え方や困難さも理解でき相談に応じられていた。さらに生活リズムの改善の実践と分析をすると、相談場面に生かせると考える。
栄養、母乳相談	食事に関する相談、母乳育児の疲労と対策、小食、好き嫌い	栄養に関する相談は、発育、発達の専門内容を合わせて相談できていた。
③関係構築の技術		
育児方法、育児不安、ストレス	保育、育児方法（０～６歳）、気になる行動、子育て上の家族関係、人間関係、エジンバラ産後うつ病質問診（EPDS）、気になる保護者支援、保育者の感情労働 加えたい項目：学生の特性及び基本的事例における対応、相談能力の分析による個別性に応じた相談能力の指導（気になる保護者事例）	気になる保護者事例については、対応が困難であった。保護者の気持ちの共感には、学生の基礎的事例への取り組みやすさと関係している部分があり、一人一人の学生の指導には、基礎的ロールプレイングでの分析が必要であり、導入が良い場合には気になる保護者の発展的なロールプレイングに入る場合には、共感性の獲得に困難な場合がある事を認識しておく必要がある。

虐待，家族関係	<p>虐待の早期発見（児の心身、親子関係の観察），虐待事例の相談，危機対応，社会資源との連携，ネットワーク</p> <p>加えたい項目：緊急性のある危機対応（保育現場の限界と社会資源の連携）の演習、共感疲労のセルフケア，職場の情報共有，理解，相互支援（ケースカンファレンス等）</p>	<p>保育者は，虐待の早期発見，早期対応に関わる大切な役割があるが，実際の相談場面では，保護者の抱える問題の深刻さに理解し，共感するのに困難な様子があった。また事例の複雑さに，今後の対策等を考える事も難しく，精神障害や虐待のある場合の保護者への専門的対応の仕方，緊急性のある危機対応等の演習，また共感疲労への対策も必要になる。</p>
カウンセリングの知識，技術	<p>対象の全体像の把握，理解，相談場面の環境構成，観察（発達，親子関係，愛着形成），相談場面のロールプレイング，共感疲労のセルフケア，職場の情報共有，理解，相互支援（ケースカンファレンス等）</p> <p>加えたい項目：親子関係（愛着形成）の観察方法の演習，遊びを通した子どもの観察</p>	<p>基礎的な相談事例に関しては，対象の理解はできていたが，発展的学習では，親子関係，愛着形成についての観察が相談場面ではできていない部分がある。親子関係（愛着形成）の観察を中心とした演習をする必要がある。</p> <p>また環境構成については相談者に配慮した相談場面が構成できているが，さらに面接場面の中で遊びを通した子どもの観察ができる能力を養う。</p>
④環境構成 ⑤遊びの展開の技術		
環境構成と遊びの展開	<p>保護者保育指導のための環境構成（相談場面の環境構成，園庭開放，ブレイルーム，子どもの成長，発達への影響），家庭生活環境の構成，人的環境（情報提供・交換，園便り，連絡帳，懇談会）</p> <p>遊びの展開（保護者の遊びを通した子どもとのかかわり方，ブレイセラピー，親子の観察）</p> <p>加えたい項目：相談場面の，環境構成，遊びの展開を中心とした演習，親子のかかわり観察，行動見本等の実施。</p>	<p>基礎的，発展的ロールプレイングを通して，相談場面の環境構成の計画，必要物品の用意，実施，振り返りを行い，事例に応じた環境構成も考え，実施できるようになった。</p> <p>ただ，環境構成から遊びの展開，親子の観察，行動見本の提示等まではできていなかった。ロールプレイングの前に，演習として環境構成，遊びの展開の演習をすると，実際の相談場面で実践がしやすくなると考えられる。</p>
⑥社会資源の活用技術		
社会資源の活用に関する知識技術	<p>保育者の専門的判断（他の専門家との関わり，保育者の専門性）ネットワーク作り（地元または就職予定地域の社会資源の把握，関係作り）</p>	<p>ケースカンファレンス（保育者間）を行い，相談実践について振り返り，保育者の専門性については検討できた。他の専門家との関わりやネットワークづく</p>

	加えたい項目：社会資源との連携場面の演習（ネットワーク会議，活動，地域社会資源活用場面）	りについては，要保護児童対策地域協議会や特別支援連携協議会，巡回相談等の場面設定，または児童相談所，保健センター，福祉事務所等との連携場面の設定をして，保育者としての連携の演習をすると，連携の実践を学ぶことができる。
--	--	--

## 考 察

本研究の中で，気になる保護者事例の学生の学習過程を通して，学生が将来保育者として相談にあたる場合に，どのような困難さがあり，それをどのように教育の中で指導して行けば良いのかを検討する事ができた。

## 教育方法の分析

### ◎学生の個別性の分析に合わせた共感性の指導

相談場面の中で最も大切なのは，相談にきた保護者の気持ちの理解と共感である。基礎的な事例の場合は，共感がしやすいが，気になる保護者の事例のように対応の困難な事例（発展的学習）については，理解や共感が得にくく，特にそれは基礎的な事例で非常に良く対応していた学生にとっては困難なようだった。

特に発展的学習では，保護者に精神障害があり，その対応の困難さが伴った。精神障害がある場合，意思の疎通を図る事が難しい場合も多く，やはりその症状や対応を理解した上での専門的な対応も保育者にも必要かもしれない。

### 学生の自尊感情とロールプレイングとの関係

講義開始時の学生の自尊感情を分析し，とロールプレイング時の学生の対応との関わりについて考察する。基礎的ロールプレイングにて保護者との共感性が高かった学生は自尊感情が高く，発展的ロールプレイングに入ると共感性が低かった。反対に基礎的ロールプレイングにて保護者との共感性が低かった学生は自尊感情が低かったが，発展的ロールプレイングでは共感性が高かった。特に自尊感情の低かった学生は，質問項目の中で自信項目が低く，最初は相談場面に非常に苦勞をしているようであったが，その分ロールプレイングを重ねる中で，専門家として自信を持ち対応するように努力した事が，発展的ロールプレイングに入った場合に，共感を得られる能力を高めたと考えられる。

反面，自尊感情の高かった学生は，発展的ロールプレイングに入り，共感性を高めるために努力が必要であり，共感疲労のケアや共感性を高めるための助言や指導を行った。原因としては基礎的学習への導入がスムーズであったこと，また自尊感情が高い場合，自分の価値観との相違が大きく，対応困難な事例への共感性が持ちにくいとも考えられる。

実際の相談場面では、ロールプレイングの事例よりも複雑で、対応の難しい事例はあり、専門的対応についての学習、また保育者としての限界の認識、社会資源と連携したりする必要がある。また、共感疲労を軽減する方法についても講義や演習の中で学んで行く必要がある。学習過程の変化の分析の結果、学習過程には学生の自尊感情の影響があった。したがって保護者保育指導技術の学習にあたり、各学生の自尊感情の分析を事前に行い、その学生に応じた学習指導をして行く必要がある。

### 保育の専門性による適切な対応の指導

相談場面において次に重要なのは、保護者の抱える問題の的確な分析と対応である。保育の専門的知識で対応できる場合（基礎的な相談事例）については、学生は学習過程の中で着実に専門性を身につけて行った。一方今回の研究事例のような、対応が難しい事例（気になる保護者の事例）については、相談の導入部分の共感性の部分でつまづき、または保護者の抱える背景の複雑さに引かれて、保護者や子どもが相談の時点で抱えている問題を的確に把握、分析するのに困難があった。大切なことは、保護者の気持ちを共感する一方、問題を客観的に分析する必要がある。それには、保護者自身が問題について冷静に話せるように、まず保護者の気持ちを理解、共感し、保護者の状況に合わせた対応が必要である。また保護者に精神障害がある場合、発達障害児、虐待、複雑な家庭環境等のある場合にも精神医学や、精神看護学、心理学等の病気や症状の基礎知識を習得し、その障害に合わせた専門的対応を身につけることも必要とされる。

### あとがき

先行研究（保護者保育指導基礎的学習過程研究）と本研究（保護者保育指導発展的学習過程研究、対応の困難な保護者保育指導）を通して、教育内容、教育方法の検討を行った。本研究において、家族、社会状況の変化の中で、様々な問題を抱えている保護者への対応は、学生にとって困難であり、特に自尊感情の高い学生は対応が困難であった。一方で、自尊感情の低い学生は基礎過程の導入に苦労し、反面对応の困難な事例の発展的学習に移ると、専門的保育指導についての難しさはあったが、保護者への共感性は高かった。学習過程において学生の特性の分析と、その個別性に合わせた指導が非常に重要であるとわかった。

また保護者保育指導の学習カリキュラムは、先行研究、本研究を通して表3のようなカリキュラムが必要と考えられる。一方、前述の様に保護者や子どもの抱える問題の複雑さ（保護者の精神障害、経済状況、家族関係、子どもの発達障害、虐待）が増加していることを考えると、精神障害や虐待加害者、被害者への対応の仕方（知識や技術）、



相談場面での発育、発達の観察方法（心身、言葉）、発達障害児を支える家族の子ども、育児への気持ちの共感、支援方法、緊急性のある危機対応（保育現場の限界と社会資源の連携）の演習、ケースカンファレンスによる情報の共有、共感疲労のセルフケア、ケア体制（保育者間）等、保育者の専門性はさらに深められる必要があり、保護者保育指導には、心理学、社会福祉学、保健学、教育学等の関連学問の専門分野に関するさらに深い知識と技術が必要とされる。それは保育学の中に持ち込まれた概念ではなく、保育学の専門性を深めるためには、そうしたパラダイムを取り込んで行く必要性がさらに求められるようになってきたと考えられる。今後は、保護者保育指導の質をさらに高め、他の社会資源との連携の中で、さらに保育の専門性を実践できる教育内容、教育方法を検討して行きたい。

保護者保育指導を教育する育児相談科目は、他大学では、4年間の教育の中で段階的に学習したり、修士課程の大学院でも教育されている、カウンセリング、ソーシャルワーク、保健、看護、教育等の複合的な知識と技術を必要とするかなり高度な能力を養成する科目である。A短期大学で2年間の教育課程の中で、これにあたる科目を学ぶことは学生にとって履修する困難さはあるかもしれない。しかし保育の専門家として一人の保護者の前で対応する時は、学習期間（2～4年）、学習過程（資格過程、学士、修士）に関わりなく、保護者にとってもっともふさわしい相談、支援をする必要がある。またそのために保護者保育指導に関する科目を履修することは、どの学習期間、学習過程にも必要である。今後は、実際に保護者との関わりを通して、保護者の気持ちの共感等のできる機会等も作っていけると、さらに学びが深まり、保護者保育指導の実践力も養われると考えられ、より良い保護者保育指導の実践のために、教育内容、教育方法の検討を深めて行きたいと考える。

今回論文作成に置いて、学習の過程でロールプレイングとその分析等、学習効果の分析のためにも協力してくれた育児相談履修の学生にこの場をお借りし感謝したい。

〈参考文献・引用文献〉

- 1) 保育法令研究会 2008 保育小六法（平成20年版） 中央法規
- 2) 松本峰雄 2005 保育士のための 社会福祉の方法 ―社会福祉援助技術― 建帛社
- 3) 厚生統計協会 2009 国民福祉の動向 厚生統計協会
- 4) 春原由紀 2007 保育者は幼児虐待にどうかかわるか実態調査に見る苦悩と対応 大月書店
- 5) 武井麻子 2001 「感情と看護」 医学書院
- 6) 楠凡之 2008 「気になる保護者」とつながる援助「対立」から「共同」へ かもがわ出版
- 7) 柏女霊峰 2008 保育者の保護者支援 保育指導の原理と技術 フレーベル館
- 8) Reymond J.Corsini(金子賢訳) 2008 Role playing in Psychotherapy :A Manual 金子書房
- 9) 荒井紀幸 1999 自尊感情を伸ばす5つの原則 玉川大学出版部
- 10) 福井逸子 2008 乳幼児とその家族への早期支援 北大路書房
- 11) 中田洋二郎 2009 発達障害と家族支援 家族にとっての障害とは何か 学研
- 12) 湯汲英史 2008 発達障害を持つ子への保育・子育て支援 明治図書
- 13) 渡辺隆 2007 子ども虐待と発達障害 東洋館出版社
- 14) 玉井郁夫 2009 特別支援教育のプロとして子ども虐待を学ぶ 学研
- 15) 東山紘久 2008 遊戯療法の世界 子どもの内的世界を読む 創元社
- 16) 小林育子 2006 保育所の子育て相談―相談の基本・事例とアドバイス― 萌文書林
- 17) 蒲原基道 2006 幼稚園，保育所，認定子ども園から広げる子育て支援ネットワーク 東洋館出版
- 18) 松村和子 2003 保護者養成大学に置ける子育て支援のありかたについて 文京学院大学紀要5.1
- 19) 梶原真由美 2006 保護者養成校における子育て支援に関する研究 北海道文教大学研究紀要 30
- 20) 荒木美那子 2004 保育の質的充実をめざした保育者養成校のあり方 日本保育学会研究論文集 57